

献 辞

踊 共 二

リベラルアーツ&サイエンス学会長

本号は2025年3月に定年を迎えて退職なさる薬袋佳孝先生の記念号として、ご縁の深い学内外の研究者たちの論考を中心にして編んだものです。略歴に記されているとおり、薬袋先生は1996年10月に教授として着任なさって以来、およそ30年にわたる歳月を本学で過ごしてこられました。その間、大学の組織、施設、教職員のメンバーにも大きな変化がありました。薬袋先生が長らく属しておられた基礎教育センターの先生方は人文学部教授会の構成員でもありましたが、2022年の組織再編に伴い、薬袋先生を含め、基礎教育センターを引き継ぐ新組織リベラルアーツ&サイエンス教育センター(LASEC)の所属者になって現在に至ります。新しいセンターは独立の教授会組織(教員会議)をもつことになり、その構成員はみな、特定の学部には属さないかたちで全学の学生たちに教育を提供する役割を担っています。教職課程の先生方も同じ教員会議の構成員です。薬袋先生ご退職後、センター教員会議構成員の半数近くが新組織の設立後に着任した人たちになります。教員会議の構成員ではないセンター所属者(客員教員および特別専任外国語講師)を含めれば、新参者の数のほうが多くなります。

小職自身は、薬袋先生が本学にいられてから半年後、いまは組織再編でなくなっている人文学部欧米文化学科ドイツ文化専攻に助教授として着任した古参組のひとりですから、薬袋先生のご退職と新しい門出をお慶び申し上げる立場にありながら、寂寞の思いを禁じえません。もちろん、名誉教授としてお迎えする推薦をLASECとして済ませていますので、4月以降もおつきあいがなくなるわけではありません。

薬袋先生の研究分野はひろく言えば放射化学・無機化学・地球化学です。先生はつねに先端的な研究を行い、学術の進展および新技術の社会実装に多大の貢献を果たしてこられました。このことは本号の内容によって専門外の読者にも容易

に理解できるはずです。先生はまた、専門的な研究のかたわら、文理融合の精神で本学におけるリベラルアーツ&サイエンス教育を牽引してこられました。さらに学外では化学グランプリを含む中等教育関連のさまざまな企画に寄与してこられました。武蔵中学高等学校との連携による各種のプログラムの実施も大きな功績です。それらには学園の根津化学研究所（1936 年設立）に関連するセミナーやコロキウムの開催も含まれています。根津化学研究所の初代所長はコロイド・界面化学の世界的権威であった玉蟲文一先生ですが、玉蟲先生は旧制武蔵高等学校の教授であっただけでなく新制武蔵大学でも教鞭をとられた先達者です。玉蟲先生は化学史・化学教育にも力を注ぎ、その記念研究室に残る蔵書は日本の化学史・科学史の歩みを知るうえで貴重な文献を数多く含んでいます。薬袋先生の後任には、玉蟲先生の業績を熟知する化学史の専門家を迎えることができました。ベテランから若手へのバトンタッチの準備はしっかり整っていることを最後にご報告し、献辞とさせていただきます。

2025 年 3 月吉日